

2018

10

vol.539



<https://www.yuai.jp/>

昭和63年1月18日第三種郵便物認可
10月号/平成30年10月1日発行

あなたがいる、わたし、がある。

ゆうあい

特集

「新人職員座談会」



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

巻頭レポート

ねお・はろう改築の 必要性



ねお・はろう
夏目 智志
Natsume Satoshi

唐突ながら、社会福祉基礎構造改革以降、支援費制度、障害者自立支援法、障害者総合支援法と福祉制度が目まぐるしく変わり、福祉サービスの利用者数は増加。それ以上に障害福祉サービス等に関する公費負担は右肩上がり、ここ10年の平均伸び率は10%を超えています。そして国は共生社会の実現を旗印に地域移行や共生型サービスを推進し、入所施設の定員削減を数値目標として掲げてきました。そのような中、当施設は開設した平成25年度以降、建て替えへ向けて準備を進め、平成28・29年度に施設大規模改修の国庫補助金を申請しましたが、二度にわたって選考外（「保育園落ちた：」ならぬ「補助金落ちた：」）。理由は「優先順位が低い」ということのようなのです。

そもそも、障害者自立支援法の改正により児童施設の再編が必要となって誕生した障がい者支援施設ねお・はろうですが、第二種自閉症児施設として国から強度行動障害特別処遇事業の指定を受けていた経緯から、ほぼ全員が自閉症スペクトラムであり行動障がい有している者が多くいます。しかし、児童施設から転用したその建物は成人仕様ではなく、複数利用の部屋が殆どです。いまの環境では利用者同士が影響しあえず、個々の生活スタイルに応じた支援が困難であるというのが喫緊の課題であり、建て替え希望の理由でした。

さて、社会福祉法人侑愛会が運営する成人入所8施設の利用者の平均年齢は50・6歳。施設間での違いはありますが高齢化の波は確実に来ています。制度化される前からグループホームを設置してきた当法人では、町中での生活を希望する人や在宅からの通所が困難になった人たちの受け入れ先として、

グループホームを建て、その戸数は49箇所に及びます。その中には高齢になってもこのままの暮らしを希望する方も多くおり、高齢化対策にも取り組まなければなりません。結果、入所施設には重度・最重度の人たちと高齢者が混在し、児童施設や地域にいる強度行動障がいのある人の受け入れは更に難しくなっている現状です。

一方、障がい児入所施設おしま学園では中高生年齢の割合が8割を超え、重度・最重度の人たちと中度・軽度の人たちの両極化が進みつつあります。また、自閉症スペクトラムが8割を超え、新規に入所を希望する児童も自閉症スペクトラムである割合が高く、行動障がい有する方も多くいます。現制度では利用延長が20歳までしか認められないため、ここ数年間の移行先の確保は、最重要課題となっています。

そのような中、ねお・はろうは前身である第二おしま学園から通算40年以上に渡って知的障がいのある自閉症の人たちを支援してきました。平成5年度に強度行動障害特別処遇事業の指定を受けてからは、24年度まで延べ31名の強度行動障がいのある自閉症児を支援し、その実績等から厚生科学研究会議に分担研究者として、強度行動障害の判定基準の改訂や支援研究に携わり、多くの事例検討を通じて、自閉症および強度行動障害の人の支援を実践してきました。そこで培われた専門性とは、24時間365日の切れ目ないライフサイクルを通じたアセスメントと構造化などの実証された方法を用いた根拠ある支援を行うことにあります。アセスメントを通じて興味・関心を理解し、それに応じた個々の生活スタイルの獲得、そして自立と地域生活を指すことは開設当時からの変わ

らない理念の一つでもあります。ですから個室利用による生活スタイルの獲得は、地域生活の一步だと考えます。

また、児童施設の状態やグループホームの現状をみたとき、一時的であっても生活の場所を確保しておく必要があります。入所施設にあるアセスメントを通じて構造化や視覚化された支援を受けながら生活スタイルを確立し、そこから次のステージへ移行していくというプロセスと支援体制は、役割として必要になっていくのではないのでしょうか。

これまで、入所施設は日中活動として生産活動などを積極的に提供しつつ、夜間にも専門的な支援を提供し、重度で行動障がいのある自閉症の人たちの暮らしを支えてきました。日中活動においては少ない人員でも効果的・効率的に支援し、夜間においても手厚く支援してきたことで安心できる生活を提供してきたという実績があります。その機能を通じて専門的な支援ができる人材を育成し、ノウハウやスキルをもって利用者と共に移行する仕組みを作り、それを実行することも念頭にあります。

将来、地域社会で適切な教育や支援を受けられる環境を整うことで利用ニーズが少なくなっていくけば、定員を段階的に減らしていくことが検討されます。定員減による空き部屋は短期入所などの枠を広げ、地域の資源として活用していくことにより、地域で生活する強度行動障がいの人たちを支えるという役割を同時に持つこととなります。これから制度や社会情勢等がどのように変わっていくのかわかりませんが、改築後のねお・はろうの将来の姿としてその輪郭が浮びあがってくるのです。



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

新人職員座談会

今年の春、ちょうど40名の新人職員が辞令交付を受けました。あれから半年。新卒採用された3名の新人による座談会を企画して、ホッペを語ってもらいました。

日付/9.19 場所/夢 インタビュアー/佐藤 友美(WSまるやま荘) 文責/小谷 高大



つくしんぼ学級
工藤 帆渚
Kudo Honami
北海道教育大学函館校
国際地域学科卒業

侑愛荘
岩松 翔太
Iwamatsu Shota
函館短期大学
専攻科卒業

サポートはまなす
石岡 昂平
Ishioka Kohei
函館臨床福祉専門学校
社会福祉科卒業



就職先として
侑愛会を選んだ理由は？

岩松 在学中に「函館青年寮通所部」で実習をして、障がい者福祉に興味を持つことになりました。しかし、高齢者介護の仕事にも惹かれていました。そこで、侑愛会の**修学資金貸付制度**を利用して、年間介護の勉強をすることになりました。「侑愛荘」を希望したのは、障がい者支援と高齢者介護、どちらの条件も満たす施設だったからです。

工藤 私も高齢分野に興味があつて、大学時代に施設でボランティアをしていました。そうしたなか、たまたま家の近くの「つくしんぼ学級」に実習に入ることになりました。もう、そこでの毎日が楽しくて、楽しくて。職員さんの生き活きと働いている姿やチームワークに感動して、惚れてしまいました(笑)。あと、法人としてライフステージに応じた事業展開をしていることも、「ここで働きたい」と思った理由の一つです。

石岡 僕も元々、高齢分野に関心があつて進学しました。3年次に初めて障がいのある方が通う通所施設で実習を経験したのが、侑愛会を志すきっかけとなりました。その後のインターンシップ(就業体験)での経験も良かったです。漠然と当別の施設への配属をイメージしていましたが、街中のグループホームで暮らす方たちを支える仕事に就くとは正直びっくりしました。

この半年を振り返ってみて
どうですか？

岩松 まず最初に、一般の高齢者と障がいのある方たちの高齢者ではずいぶん趣を異にしている印象を受けました。それは、加齢老いの自覚の有無について特に感じます。障がいの

あります。私は当別地区の敷地内にある**スカイハイツ**という職員アパートに住んでいます。ですので、住む場所も仕事の場所も当別地区なんです。周囲が思うほど、ストレスや困ったことはありません。家賃も安いですし、寝坊してもすぐ出勤できます(笑)。何より楽しいのは、スカイハイツに住む職員同士とても仲が良いこと。当別漁港で釣った魚を肴に一緒にお酒を飲んだりすることもあります。自然も豊かです。

工藤 ええー、楽しそう。私は、規則正しい日勤帯のみです。行事の準備などで遅くなることもありますが、子どもたちのことを考えての作業は苦ではありません。家族と同居しているのですが、休みの日は仕事に備えて体を休めることが多いかな。

石岡 様々な勤務シフトがあります。ただ**連番勤務**が基本です。今日もそう。朝が遅くて夜も遅い。今は慣れました。僕も家族と同居です。奨学金の返済でしばらくは無理ですが、いずれ一人暮らしを試みたいですね。

今後どういう職員を目指していきたいですか？



ある方たちはその自覚に乏しく、若いときの生活スタイルやリズム、体の動かし方で怪我などにつながりやすいケースがあります。支援の場面では、特に入浴介助で気を遣います。私は体格が小柄なので苦労することもあるのですが、先輩職員がフォローしてくれました。また、所属するユニットでは精神面でのサポートが必要な方が多くいらつしやるので、そこも色々勉強させてもらっている最中です。



工藤 仕事が楽しいです！一度も辞めたいと思つたことはありません。ただ全てが勉強中で、未熟な自分のふがいなさに落ち込むことがあります。今、担当する児童は2名います。ご家族にとっては、ベテランも新人もありません。療育に関する相談や質問に十分に応じることが出来ないときに感じます。しかし、先輩職員が過去の事例や体験談を教えてくださいたりして色々フォローしてくれるのでありがたいです。他の業務も含めて、全て勉強中です。

石岡 対象の方々は全て年上の方たちです。勤めてから3か月くらいは職員として見てもえませんでした。「他を当てるから」と支援を拒否されることも。今は少しずつ認めてもらえることが増えてきているように感じます。最近では、買い物計画を作るのに私を指名してくれたことがあつて、それはとても嬉しかったです。「サポートはまなす」は、数あるグループホームのセンター拠点機能があります。普段から巡回して、金銭管理から各種生活場

岩松 外出などが難しくなってきたりもいるので、日常生活のなかで楽しみや出来ることを増やしていってあげたい。機能低下が避けられない方たちに寄り添った支援が出来る職員になりたいです。

工藤 子どもからご家族からも必要とされる職員を目指したいです。この人が担当で良かったと思われよう。先日の運動会では、ある保護者の方から「(自分の子どもが)こんなに成長した姿を見ることが出来て感謝です」と話してくれました。うるつと来ましたし、励みにもなりました。

石岡 利用者の方たちから信頼される職員になりたいです。何でも相談してもらえような関係性を築きたいです。

座談会を終えて

岩松 最初緊張してくちびるがバサバサになりましたが、3人で打ち解けて話が出来てとても楽しかったです！

工藤 同じ業種の友人がほとんどいないので、明日から「また頑張ろう！」と思えるような力をもらうことが出来ました。ありがとうございます。

石岡 僕もとても楽しかったです。堅苦しくないリラックスした雰囲気だったので、息抜きできる心地よい時間となりました。

今回の座談会に参加してくれた3人は、出来るだけエリアや業種が被らないように人選しました。どの方もフレッシュで、仕事への情熱で輝いていました。困難なこともあるようですが、前向きにチャレンジしていこうとする姿勢も気持ちの良いものでした。内容こそ違えど、職員たるもの誰もが通過してきたような道。初心忘れず、一緒に頑張っていきたいと思います！ありがとうございます。

面でのサポートまで業務は本当に多岐にわたっています。

入職後の新人研修で
印象に残っていることは？

岩松 6月の**前期新任職員研修**の施設見学会はとても良い勉強となりました。普段は所属する施設のこと以外知らないもので、同じ法人のなかの別の事業所を見て回って視野を広げたり法人の理解を深めたりすることが出来ました。短期入所で、侑愛荘を利用している方が日中通つている「ワークセンターほくと」にも行きました。暮らしの場面と違う日中活動の様子を見て、違った視点で理解を深めることになりました。

工藤 岩松さんと同じ前期新任職員研修での領域別の講義がとても勉強になりました。ライフステージに応じた事業展開を具体的にイメージすることが出来ました。どうしても、普段は子どもに関する学びに限られがちなので。

石岡 僕は、3月に行われた**新規採用者向け研修**が印象に残っています。なかでも、外部の講師の方による「社会人としての心構え」や「ビジネスマナー」はとても為になりました。仕事柄、企業訪問なども多いので大いに役に立っています。

勤務形態について教えてください

岩松 日勤から夜勤、他にも様々な勤務シフトがあります。休みが友人と合わないことも



修学資金貸付制度
学校卒業後に侑愛会への就職を希望される現役学生に向けた修学資金の貸付制度です。月4万円支給、就職後3年以上在職した方は返済を免除します。

前期新任職員研修
人材育成を大事にする侑愛会では、研修体制も整っています。なかでも入職後に1年間かけて行う新任職員向けの研修は充実しています。前期新任職員研修では、一日目に領域別の講義(二日目に救急救命講習と施設見学を行います)。

新規採用者向け研修
一番最初に行う新任職員向け研修です。侑愛会に関する基本的な知識と心構え、また外部講師による社会人としてのマナー講座を学びます。グループワークもします。

スカイハイツ
当別地区の敷地内にある職員アパートです(写真)。二階建てで8人定員。家賃は3万円ちょっとですが、住宅手当が支給されるので実質負担はその半額程度となります。職員アパートは他にもサンハイツがあります。



サポートはまなす連番勤務の流れ

13:00	出勤
13:15	全体引き継ぎ、個別のケース確認など
14:00~	通院支援、配布資料作成等の事務業務など
15:30-16:00	送迎支援、世話人引き継ぎなど
16:00-18:00	通院支援、グループホーム巡回、記録入力など
18:00-19:00	休憩
19:00-20:00	グループホーム巡回、記録入力など
20:00	世話人引き継ぎ
20:10-21:30	グループホーム巡回、記録入力など
21:30-22:00	全体引き継ぎ
22:00	退勤



社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園

www.yuai.jp